

参考情報 ～ワルファリンによる出血の処置～

本剤とワルファリンの併用により**出血等の症状**が発現した場合には、**適切な処置**をお願いいたします。
 なお、ワルファリンの安全性に関する詳細情報につきましては、当該製品の販売会社へお問い合わせ
 ください。

出血に対する一般的な処置
出血の部位・程度、血液凝固能低下の程度により、処置方法は異なりますが、以下に一般的な処置方法をご紹介します。
①ワルファリンを中止
②同時に血液凝固能(トロンボテスト、プロトロンビン時間等)をチェック
③局所的な止血処置が可能かを検討



上記でコントロールできない出血の場合	
持続する小出血	緊急性のある大出血
ビタミンK ₁ あるいはK ₂ を1日量として、5～20mg 経口投与（場合により静注を考慮）。	ビタミンK ₁ あるいはK ₂ を1日量として、2.5～ 10mg静注。



さらにすみやかな血液凝固能の正常化を期待する場合 ビタミンKの投与から数時間経ても止血効果が得られない場合	
新鮮血の輸血、新鮮凍結血漿の輸注、ビタミンK依存性凝固因子濃縮製剤などの投与を検討。	
注 意	ビタミンKは10mgを超えて大量を一旦投与すると、数日から2週間ワルファリンを増量しても 抗凝固効果が得られなくなることがある。

出典：「Warfarin適正使用情報 第3版」(エーザイ株式会社)